

# 養鶏農協だより

—岡山県養鶏農業協同組合—

## 共 済

鶏痘予防ワクチン無料配付について

種雛の配布羽数に応じ、鶏痘予防ワクチンを組合員全員に無料で配布します。配布希望月日をご通知下さい。

鶏痘予防接種は、従来流行期に入る前に実施する慣行でしたが、一般養鶏家の単位飼養羽数の増大、地域的集団化、あるいはブロイラー育成の増加等に伴い、鶏痘ウイルスの常在が疑われるようになりました。また、このワクチン接種によって他の病原ウイルスの侵入をもある程度防ぐことができ、伝染性呼吸器疾患の予防効果も期待できますから、鶏痘流行期であると否とにかかわらず3、40日齢で予防接種を実施することをおすすめします。

呼吸器疾患治療費の補助金支出について

呼吸器疾患は、早期に発見して治療することが必要です。重症になってからでは、治療も困難だし経費も多くかかります。早期発見には、夜間に鶏の状態を観察するのが最もよい方法です。

鶏に異常を発見したら直ぐ指導課へ連絡し、適切な治療とまんえん防止を行なって下さい。所要薬剤費の30%を共済会計より補助します。但し、指導課を通じて購入した薬剤費に限ります。

## 飼 料

ひところ非常に逼迫していたトウモロコシを中心とした輸入飼料事情がかなり緩和し、一部には予想されたようにトウモロコシの金融投げも出ていると伝えられています。また船運賃もソ連の荷受事情をいれて値下がりし、一時は16ドル（ガルフ横浜間トン当たり）もしたものが10ドルほどに下がり、値上げ前の8ドルに近くなりました。しかし現在荷受されているトウモロコシは高値契約物であり、また1、2月の配合飼料の売行きが不振であったこと、今までの出血が余りにも大きかったこと等の事情で、一

般に値下げが反映するのはもう少し先になるのではないかとわれています。

## 採 算

卵価はかなりの線を維持し、種卵は価格保証がなされていますから、採算面からいえば飼料高のみをかこっていましたが、上述の通り飼料事情も好転していますので採算向上が期待されます。また、廃鶏の流通状況、鶏卵の消費市場への出荷状況、それに伝えられる配合飼料の売行き不振等から推察すると、全国的に産卵鶏はかなり減っているようです。これから産卵最盛期に入っても、冬季の産卵率が以外に高かったので急激に市場出荷量が増すとは考えられません。従って、採卵養鶏は採算好調が期待され、一部では、秋には空前の卵価高が現われるのではないかとさえいう人がいます。

ブロイラーは、契約育成が大部分ですから、飼料価格によって採算面が大きくゆらぎます。飼料値下げ待ちというところでしょう。

## 衛 生

一部衛生専門家が、産卵鶏の輸卵管障害を問題にしています。従来もあつた卵墜、卵秘、脱肛等で、中には伝染性のものもあるのではないかとされます。すなわち、細菌やウイルスが原因で輸卵管に炎症が起こり、その刺激で逆蠕動して途中まで降りた卵が細菌やウイルスに汚染した状態で逆もどりし、ラッパ管から腹腔に落ちこんでしまう。そして腹膜炎から腹水症を起こします。また、卵の降りた場所が卵殻腺であると卵秘を起こして二重卵や三重卵ができたり、あるいは一度に5個も6個も産卵するという奇現象まで起こしてたいい鶏は死にます。

原因としては種々の細菌、ウイルスによるものの外、農薬等殺虫剤の中毒、ケージの不完全等によるストレス、点燈飼育の不合理な管理等が考えられま

### 岡山畜産便り 1964.02・03

す。また最近は大カロリー飼料も問題視されています。産卵用飼料に、数年来低蛋白大カロリー飼料を与えとよくいわれるようになりました。その大カロリー飼料で、動物性脂肪添加のものを、ケージで飼養されている産卵鶏に与えると輸卵管障害をおこし易いといわれます。

わが国では、動物性脂肪はまだ価格が高いため、それを添加した飼料はブロイラー用に試用する段階ですが、米国のように中性洗剤の普及で動物性脂肪が安くなり、大カロリー給源として飼料用に出回るようになるかも知れませんし、米国が飼料用としてタローあるいはグリースと称する動物用脂肪を輸出しようとして種々な機関を通じて働きかけています。今から考えておいてよいでしょう。